

# 2022 年度秋季大会の告示

## I. 大会の案内

新型コロナウイルス感染状況によっては、開催形態が変更となる場合があることをご承知おきください。

### 1. 期日

2022 年 10 月 24 日（月）～10 月 27 日（木）

### 2. 会場

北海道大学 学術交流会館（他：同 大学院地球環境科学研究院）

北海道札幌市北区北 8 条西 5 丁目（他：札幌市北区北 10 条西 5 丁目）

<https://www.hokudai.ac.jp/>

会場には駐車スペースがないため、公共の交通機関でのご来場をお願いします。

### 3. 研究発表

対面形式での口頭発表と、オンライン会議システムを用いたライブ形式のポスター発表を行う予定です。また、口頭発表・ポスター発表とも、希望者は大会ウェブサイト上でのオンラインポスター（講演資料など）の掲載も行います。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。

### 4. 大会日程

大会は以下の日程で行われる予定です。

第 1 日（10 月 24 日）午前：ポスター発表，午前～午後：口頭発表

第 2 日（10 月 25 日）午前：ポスター発表・口頭発表，午後：授賞式，受賞記念講演

第 3 日（10 月 26 日）午前：ポスター発表，午前～午後：口頭発表

第 4 日（10 月 27 日）午前：ポスター発表，午前～午後：口頭発表

なお、今大会は、口頭発表のオンライン中継は行いません。

### 5. オンラインでの大会参加にあたって

今大会の口頭発表は対面で実施するため、オンラインによる参加では聴講できません。授賞式・受賞記念講演はオンライン中継を行う予定です。

今大会のポスター発表は、大会期間中の午前中の初めの時間帯にオンライン会議システム（zoom を予定）を利用して、ライブ形式で行います。聴講者は Google アカウント等の準備なしに参加可能です。口頭発表・ポスター発表とも、発表者は任意で前回大会までと同様に発表資料を大会ウェブサイトに掲載し、質疑等を行うことができます。これを利用するには、発表者・聴講者に関わらず気象学会 Google Workspace（G Suite）アカウント（会員）または Google アカウント（非会員）が必要です。Google Workspace アカウント発行の申請は、会員サイト（<https://www.metsoc.or.jp/membersite>）より可能です。

### 6. 懇親会

今大会では懇親会は開催しません。

### 7. 大会ウェブサイト

本大会用の大会ウェブサイトを開設しています。大会参加手続き、講演申込み受付、大会プログラム、発表要領、大会発表規程などの詳細につきましては、大会ウェブサイトにて最新の情報を随時更新していきますので、こちらをご参照下さい。URL 等につきましては、気象学会ホームページ（<https://www.metsoc.jp/>）をご参照下さい。

## II. 大会参加手続き

### 1. 講演を行う場合の参加申込方法

本大会告示の後に掲載した「日本気象学会 大会発表規程」に従って講演の申し込みを行って下さい。  
原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。オンラインで大会予稿原稿を送付できない場合や、クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など、止むを得ない事情がある場合は、電子メールによる申込を受け付けます。

なお大会参加登録、参加費・投稿料支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意ください。また、非会員の講演申込は専門分科会に限定していますのでご注意ください。(VI. 非会員、団体会員の大会講演について)

パソコン・タブレット等の端末、インターネット環境等は、各自でご準備ください。

## 1.1 オンラインによる申込

- ・ 締切：2022年7月13日(水) 15時(日本時間)
- ・ 大会ウェブサイトを参照し、指示に従って申し込みをして下さい。
- ・ 2022年度春季大会より、申込システムを変更し、株式会社メタップスペイメントが提供する「イベントペイシステム」を使用しています。従来とは仕様や操作が異なりますので、時間に余裕を持ってお申し込みください。また、メタップスペイメントでは不正アクセスによる情報流出のため現在クレジットカードの利用を停止しています。再開の時期が分かりましたら大会HP等で周知いたします。
- ・ 申込みにあたり、個人情報を入力した上で、大会参加登録、参加費と投稿料の決済、講演申込と予稿送付を行います。これは講演者本人が行なってください。申込締切後、プログラム編成を支障なく進めるために、登録された個人情報は講演者本人のものであることが必要です。また、一度の参加登録で、講演者の異なる2件の講演申込を行うことは控えてください。ご協力をお願いします。
- ・ 講演申込の前に、予め大会参加登録と参加費・投稿料の払込(クレジットカード決済またはコンビニ決済)を行って下さい。大会参加登録と参加費・投稿料の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・ オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・ 大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)に限ります。
- ・ 大会予稿原稿を投稿する際には、ウェブサイト上で著作権委譲に同意する必要があります。
- ・ 講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は、プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが、諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお、発表日時の希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので、併せてご承知おき下さい。
- ・ 講演申込締切(7月13日(水)15時)までは、ウェブサイト上において、一旦申込んだ講演申込の登録内容の修正や大会予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。
- ・ 締切後の講演申込や大会予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

## 1.2 電子メールによる申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・ 締切：2022年7月6日(水)  
(オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意ください。)
  - ・ 以下の4点を講演企画委員会事務局(下記)まで電子メールにてお送り下さい。
    - ① 大会予稿原稿(PDF形式)
    - ② 講演者氏名(漢字、ふりがな、ローマ字)、所属、所属略称、会員番号、口頭発表希望の有無、連絡先(住所・電話番号・E-mailアドレス)、講演題目、主・副キーワード、投稿料種別(投稿料A/投稿料B)、その他必要事項を書いたもの(様式は自由)
    - ③ 郵便振替払込受領証のコピー(次項参照)
    - ④ 全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書(フォーマットは以下に掲載)  
[https://www.metsoc.jp/E/msj\\_copyright.pdf](https://www.metsoc.jp/E/msj_copyright.pdf)
- 送付先：[kouenkikaku2022a@googlegroups.com](mailto:kouenkikaku2022a@googlegroups.com)  
(件名に「講演申込 2022a」と明記して下さい。)
- ・ 講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって参加費・投稿料を納入して下さい。
    - － 口座番号は「00130-3-5958」、
    - － 加入者名は「日本気象学会」です。
    - － 「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
      - ① 「2022年度秋季大会参加申込」と明記
      - ② 会員番号

- ③ 投稿料種別（投稿料 A または投稿料 B）
- ④ 参加費・投稿料金額
- ⑤ 合計金額

- － 「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
- － 払込料金は本人負担でお願いします。

### 1.3 講演のキャンセルについて

- ・ 講演申込後は、講演のキャンセルは原則として受け付けられません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・投稿料は返却しませんのでご注意ください。
- ・ 講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会 ([kouenkikaku2022a@googlegroups.com](mailto:kouenkikaku2022a@googlegroups.com)) までご相談下さい。ただし、大会参加未登録の会員や非会員による代理発表は認められません。

## 2. 講演をしない（聴講のみ）場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン（大会ウェブサイト）による事前登録をご利用下さい。なお、今大会では当日受付は行いません。パソコン・タブレット等の端末、インターネット環境等は、各自でご準備ください。

### 2.1 オンラインによる申込

2022年9月14日（水）までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込んで下さい（クレジットカード決済またはコンビニ決済）。期日までに参加費の払い込みが済まされない場合は、参加登録は無効となります。

### 2.2 電子メールによる申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・ 締切：2022年9月7日（水）  
（オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意ください。）
- ・ 以下の2点を講演企画委員会事務局（下記）まで電子メールにてお送り下さい。
  - ① 参加者氏名（漢字、ふりがな、ローマ字）、所属、所属略称、会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）、連絡先（住所・電話番号・E-mail アドレス）（様式は自由）
  - ② 郵便振替払込受領証のコピー（次項参照）

送付先：[kouenkikaku2022a@googlegroups.com](mailto:kouenkikaku2022a@googlegroups.com)

（件名に「講演申込 2022a」と明記して下さい。）

- ・ 参加申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって参加費を納入して下さい。
  - － 口座番号は「00130-3-5958」、
  - － 加入者名は「日本気象学会」です。
  - － 「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
    - ① 「2022年度秋季大会参加申込」と明記
    - ② 会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）
    - ③ 参加費金額
  - － 「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名（漢字、ふりがな、ローマ字）・電話番号をもれなく記入して下さい。
  - － 払込料金は本人負担でお願いします。

## 3. 参加費、投稿料

### 3.1 大会参加費、投稿料

- ・ 参加費と投稿料に分離されています。参加費には大会講演予稿集費が含まれます。
- ・ 参加費（予稿集費含む、消費税込）は以下の表の通りです。

種別	参加費
会員	5,000 円
非会員	9,000 円

- ・ 投稿料（消費税込）は以下の表の通りです。

投稿料		
種別	1 件	2 件
投稿料 A	6,500 円	11,500 円
投稿料 B	3,000 円	6,000 円

- ・ 投稿料の種別：
  - 投稿料 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）
  - 投稿料 B：投稿料 A に該当しない講演者による投稿
- ・ 投稿料 A の 2 件目の投稿料は 5,000 円に割引されます。

### Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

#### 1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

#### 2. 作成方法

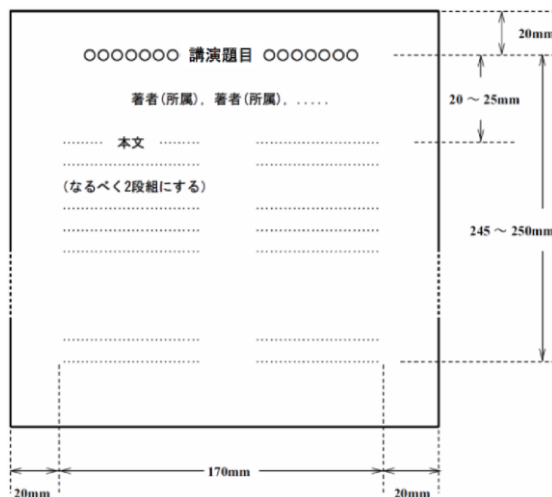
ファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。

#### 3. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に\*をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は 20～25mm として下さい。本文は原則として 2 段組（左半分→右半分）にして下さい。推奨テンプレートが大会ページにありますのでご利用ください。  
[https://www.metsoc.jp/default/wp-content/uploads/2017/12/MSJ\\_Abstract-Template\\_v4.doc](https://www.metsoc.jp/default/wp-content/uploads/2017/12/MSJ_Abstract-Template_v4.doc)

#### 4. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は（公社）日本気象学会に帰属します。



図：A4 判用紙による大会予稿原稿の作成要領

### Ⅳ. 研究発表要領

#### 1. 研究発表の概要

研究発表は、対面形式での口頭発表とオンライン会議システムを用いたライブ形式のポスター発表を予定しています。また、口頭発表・ポスター発表とも、希望者は大会ウェブサイト上でのオンラインポスターの掲載も行います。

#### 2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。2 件の口頭発表を申込まれた場合、希望通りのセッションに組み込むことが出来ない場合があることをご了承ください。

### 3. 講演方法の選択について

講演方法（口頭／ポスター）につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承ください。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振分けを行います。

### 4. 一般口頭発表

一般口頭発表の講演時間は全て同一とします。1 件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。なお、口頭発表のオンライン中継は行いません。

### 5. 専門分科会の概要

- ・専門分科会は原則口頭発表となります。
- ・専門分科会の各講演の講演時間は世話人が決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・専門分科会への講演申込締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は 7 月 13 日（水）、電子メール申込は 7 月 6 日（水））です。
- ・専門分科会に申込まれた発表については、世話人が大会予稿原稿を審査して、専門分科会での発表を認めるかどうかを判断します。
- ・専門分科会に申込まれた発表が、世話人によって専門分科会に適さないと判断された場合には、講演者が気象学会会員の場合は、一般発表に振替えます。講演者が非会員の場合は、大会予稿は不採択となり、参加費・投稿料が返却されます（VI. 非会員、団体会員の大会講演について）。
- ・各専門分科会の詳細につきましては、「V. 専門分科会のテーマと趣旨」をご参照下さい。

### 6. ポスター発表

今大会のポスター発表は、オンライン会議システム（zoom を予定）を利用して、大会期間中の午前中の初めにライブ形式で行います。講演者ごとにオンラインのブレイクアウトルームを設け、聴講者は自由にミーティングルームを移動しながら講演者と議論を行います。発表時間は 90 分程度を予定しています。なお、発表および聴講に必要な PC、通信環境等は各自で準備をお願いします。また、会場にはポスターを視聴するための設備等は設けませんので、ご了承ください。詳細については大会ウェブサイトにて随時公開していきますので、適宜ご確認ください。

### 7. オンラインポスター

今大会でも最近のオンライン大会同様に大会ウェブサイト上にオンラインポスターの掲載を行います。講演者は講演資料（PDF や Google スライド、PowerPoint、講演動画等）をインターネット上の所定の場所にアップロードし、運営側が大会ウェブサイト上でそれを公開します。聴講者はそれを閲覧し、コメントを記入することで、講演者と議論することができます。なお、今大会ではオンラインポスターの掲載は任意です。

### 8. 口頭発表における機器の使用について

現地開催での口頭発表（専門分科会を含む）では、PC プロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。

PC プロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。

- －パソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクターのほか、VGA ケーブル及び HDMI-VGA 変換アダプタを準備します。VGA（ミニ D-sub15 ピン）、あるいは HDMI（フルサイズ）コネクタを装備した PC を準備ください。
- －セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
- －突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

## 9. その他

- ・発表に使用する PC の OS やウェブ会議ソフト、ブラウザは、最新のものにアップデートすることを推奨します。
- ・発表資料のアップロード、公開、質疑応答、ウェブ会議システムの利用に関する詳細は、後日、大会参加者に通知いたします。質問は、講演企画委員会 ([kouenkikaku2022a@googlegroups.com](mailto:kouenkikaku2022a@googlegroups.com)) までご連絡ください。

## V. 専門分科会のテーマと趣旨

2022 年度秋季大会では下記の通り、9 件の専門分科会が開かれます。

### 1. 「極端な気象・気候がもたらす健康リスク」

趣旨：2017 年度の秋季大会では、健康リスクに関わる生気象学をテーマとした専門分科会を開催したが、新型コロナウイルスの流行とそれに伴う大きな社会変化が生じ、人の健康リスクにとって新たな局面を迎えている。日本は類を見ない超高齢化社会を経験し、気象や気候に脆弱な人口の増加は、健康リスクを個人から集団へ視点を移した評価と対策を論じる段階にきた。数日あるいは数週間の比較的短い時間スケールの気象変化と、猛暑や厳冬といった極端な気候変化の両方に人は暴露され続け、温熱生理学的な体への負荷となる。これは、急性の熱中症やヒートショックをはじめ、心・脳血管疾患や呼吸器疾患の発症誘因となることが知られ、気象や気候に脆弱な集団にとって高リスクとなる疾患を特定していく試みは、将来の気候変動から社会を守るだろう。この専門分科会では、気象や気候・人間社会・健康リスクのつながりを広く捉え、関連するトピックスや課題を共有する。

世話人：大橋唯太（岡山理科大学）、井原智彦（東京大学）、岡和孝（国立環境研究所）、高根雄也（産業技術総合研究所）、寺尾徹（香川大学）、登内道彦（気象業務支援センター）、福島あずさ（神戸学院大学）、藤部文昭（東京都立大学）

### 2. 「近年の“集中豪雪”をもたらす JPCZ：観測と数値実験及び温暖化影響」

趣旨：2018 年 2 月や 2021 年 1 月には北陸沿岸部で、2021 年 12 月には彦根などで降雪量の記録を更新する大雪が発生した。これら的大雪には日本海寒帯気団収束帯（JPCZ）が関連したとされる。JPCZ は、1980 年代以降、観測や数値モデルを用いた研究により、その発生要因や強化要因が調べられてきた。2000 年以降は非静力学モデルを用いた研究も行われ、JPCZ 中のメソ擾乱の存在など詳細な構造も分かってきた。ただ、スケールの異なる大気変動との関係や海面水温分布との関係など、まだ分かっていないことも多く、2022 年冬には観測船による JPCZ の断面観測が実施された。本分科会では、JPCZ 及び JPCZ がもたらす大雪を対象とした観測、数値実験、解析データを用いた分析、大気大循環場との関連、大気海洋相互作用、温暖化との関連など、種々の時空間スケール・分析手法を用いた研究をもとに JPCZ への理解を深めたい。

世話人：川瀬 宏明（気象研究所）、立花 義裕（三重大学）、本田明治（新潟大学）、川村隆一（九州大学）、中井専人（防災科学技術研究所）、橋本明弘（気象研究所）、山崎哲（海洋研究開発機構）

### 3. 「温室効果ガス監視の最新動向」

趣旨：パリ協定で合意された温度目標、そして温室効果ガスの排出削減目標の着実な達成には、大気観測に基づく高精度な温室効果ガスの監視が鍵となる。近年では、関連トレーサーも含めた温室効果ガスの大気観測だけでなく、衛星観測、大気化学輸送モデル、地表排出インベントリなど各要素の技術開発が進み、温室効果ガス監視の精度向上に貢献するとともに新しい科学的知見をもたらしている。本分科会では、観測、モデル、インベントリ、統合解析など多様な手法による、全球・地域・都市域など様々なスケールでの温室効果ガス監視に関わる最新成果を報告するとともに、将来の温室効果ガスの増加や排出削減の影響も見据えて、今後の課題と方向性を議論することを目的としている。

世話人：梅澤拓（国立環境研究所）、伊藤昭彦（国立環境研究所）、市井和仁（千葉大学）、羽島知洋（海洋研究開発機構）、石戸谷重之（産業技術総合研究所）

### 4. 「くらしと気象 ～持続可能な社会に向けた技術革新・地域資源の活用・防災への取り組み～」

趣旨：人々の暮らしに大きく関わる気象は地域性を有し、ベースのインフラとも言える現象です。例えば北海道は、雪も積もれば真夏日にもなり、海水浴も流水観光もできる世界でも類稀な地域で、豊かな環境に暮らす人々は独自の生活様式を育み、産業を興し、長く厳しい冬の低温・大雪・暴風雪等、ハザードから生活を守る知恵も獲得してきました。

今後、我々が持続可能な社会を歩むためには、暮らしに根付いた気象現象等をよく知り、新たな知見の獲得や技術革新により知恵を豊かにすること。また、その知恵を人々に浸透させる研究者・教育者・気象予報士をはじめとする人的資源の活用や育成が重要になります。ついては、本分科会では「暮らしと気象」にまつわる様々な研究を募集します。それらが生活・産業・防災、人的資源の活用などの各面で、気象を活用して暮らす知恵を進化させるヒントになれば幸いです。さあ、気象の力で「北海道から、その先の持続可能な道へ」

世話人：大野雅人（（一社）日本気象予報士会）、岡田登志恵（（一社）日本気象予報士会）、金村直俊（（一社）日本気象予報士会）、白川龍生（（一社）日本気象予報士会）、野村耕一（（一社）日本気象予報士会）、和田直人（（一社）日本気象予報士会）

## 5. 「2022年1月のトンガ海底火山噴火によって発生した大気波動・物質拡散と気象津波」

趣旨：2022年1月15日に発生した南太平洋のフンガ・トンガフンガ・ハアパイ海底火山の噴火に伴い、Lamb波や音波および重力波が全球にわたって伝播した。これに伴い、気象津波や電離層擾乱など様々な現象が全球的に観測された。噴火に伴う大気中へのエアロゾル拡散、および気候系への影響についても解明が求められる問題である。一連の現象解明と防災への応用を図る上で、火山・気象・海洋の分野横断的な知見が求められる。本分科会では、気象学的な観点から幅広く話題を募り議論を行っていきたい。波動伝播に関する理論研究、地上観測・電離層を含む高層気象観測・人工衛星観測、大気・海洋結合モデル等、様々な研究手法に基づく話題提供を歓迎する。

世話人：田中健路（広島工業大学環境学部）、青柳曉典（気象庁気象研究所）高野洋雄（気象庁気象研究所）、中島健介（九州大学大学院理学研究院）

## 6. 「地球環境変動観測ミッション（GCOM）の成果と将来に向けて」

趣旨：JAXAの地球環境変動観測ミッション（GCOM）は「地球環境変動の監視・解明」「地球環境変動に関する政策立案」「現業利用」への貢献を目的として計画された。2つの衛星による全球高頻度観測を基に、水循環・放射収支・炭素物質循環を構成する気候必須変数（ECVs）の実態を把握すると共に、近未来や長期の予測精度検証と向上にむけた気候モデル開発機関との連携を進めている。折しも、2022年にAMSR2を搭載した水循環変動観測衛星「しずく（GCOM-W）」が打上げから10周年（先代のAMSR-Eからは20周年）、SGLIを搭載した気候変動観測衛星「しきさい（GCOM-C）」が5周年を迎える。これを機に、GCOMの大きな目的である、長期的な大気・海洋・陸・雪氷圏の観測の蓄積・解析成果、気候モデルとの連携やデータ同化、現業利用の進展等についての最新の研究成果を集約すると共に、後継機計画についても議論する。

世話人：可知美佐子（宇宙航空研究開発機構）、増永浩彦（名古屋大学）、本多嘉明（千葉大学）、村上浩（宇宙航空研究開発機構）、青梨和正（京都大学/宇宙航空研究開発機構）、中島孝（東海大学）、計盛正博（気象庁）、鈴木健太郎（東京大学）

## 7. 「次世代モデル開発と気象・気候の本質理解」

趣旨：これまで、気象・気候モデルは、新規な手法・物理要素を随時取り込みながら改良されてきた。モデルはシステムとして複合化され表現可能な現象の幅を広げてきた反面、各プロセスモデルが積み残してきた問題も多くあり、計算結果の不確実性の温床にもなっている。高解像度化や伝統的なモデル高度化だけでは、不確実性低減は困難になりつつあり、一段高い視点からのモデル作りが求められるようになっていく。課題を克服するためには、積み残してきた「難問」へ挑戦するだけでなく、データ科学の積極利用に取り組むことも有効であろう。一方、モデルは数理科学的に気象・気候現象の本質を理解するための極めて有効な手段となる。再現性向上を目指すモデル開発とともに数理科学的側面にも取り組むことで、相補的發展につながることを期待できる。本分科会では、様々な視点からの話題提供をもとに、現状の問題点をあぶり出し次の時代のモデル開発の在り方を議論する。

世話人：堀田大介（気象研）、櫻村博基（神戸大・理）、小玉知央（JAMSTEC）、三浦裕亮（東大・理）、鈴木健太郎（東大・大気海洋研）、富田浩文（理研・計算科学）

## 8. 「予測可能性から制御可能性へ」

趣旨：気象の予測可能性はこれまで盛んに研究されており，気象予測の精度や不確実性の定量化は一貫して向上してきた．これにより，予測と対となる制御という観点で，気象の制御可能性について研究する準備が整ってきたといえよう．内閣府が主導するムーンショット目標の一つとして，2050年までの極端風水害の制御を目的としたプログラム（ディレクター：三好建正）が開始し，その機運が高まりつつある．極端気象は一般にカオス性が強く，カオス的な性質を利用することで，小さな介入が大きな効果を生む．これにより，極端気象の発生抑制や，弱化，位置の変化など引き起こすといった制御が考えられるかもしれない．本分科会では，予測可能性の理解を深め，これを前提とした制御可能性の理論，気象改変技術，その他気象制御可能性に関連する話題について議論を行う．

世話人：三好建正（理化学研究所計算科学研究センター） 中澤哲夫（東京大学大気海洋研究所），高玉孝平（科学技術振興機構）

## 9. 「日本気象学会における学術出版の未来」

趣旨：日本気象学会では国際査読ジャーナルとして気象集誌（Journal of the Meteorological Society of Japan）と SOLA を出版している．気象集誌は，英文の査読付きオリジナル論文及びレビュー論文のみを掲載する隔月刊の電子ジャーナル論文誌であり，SOLA は，速報性を重視した短報（レター）を Web 上（電子版）のみで公開する英文の査読付き電子ジャーナル論文誌である．気象集誌は，今年，第2輯として第100号を刊行する記念する年となる．本分科会では，国際学術雑誌を巡る最近の状況を踏まえ，日本気象学会におけるジャーナルの今後の在り方を議論したい．学術雑誌に関する知見，提言，出版論文に関する統計的解析等の発表を期待する．

世話人：佐藤正樹（東京大学大気海洋研究所），竹見哲也（京都大学防災研究所），堀之内武（北海道大学地球環境科学研究院）

## VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません．しかしながら，短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して，講演企画委員会では専門分科会に申込みされた講演が世話人により採用された場合に限り，非会員の講演を認めることとします．非会員が専門分科会に申し込んだ講演が採用されなかった場合は，大会予稿は不採択となり，参加費・投稿料が返却されます（講演者が気象学会会員の場合は，専門分科会で不採用になったとき，世話人と講演企画委員会の判断により一般発表への振替が行われます）．講演企画委員会としては，大会での講演発表を希望される方には，気象学会会員になって頂くようお願い申し上げます．

## VII. 団体会員，賛助会員の大会参加について

団体会員，賛助会員は，2名まで個人会員と同等の扱いで大会に参加することができます．講演申込の際には，予稿原稿の著者欄に下記のように団体名を記述してください．

〇〇〇会社（講演者\*，共著者，・・・）

また参加申し込みの際には，会員番号は団体会員・賛助会員の番号を，所属略称の末尾に「・団体会員」または「・賛助会員」を付記するようにしてください．

## VIII. 研究会活動の支援について

大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動（一般の会員が自由に参加できるもの）に対し，支援を希望する方は，次の事項を明記した原稿を，講演企画委員会（E-mail: [kouenkikaku2022a@googlegroups.com](mailto:kouenkikaku2022a@googlegroups.com)）へお送り下さい．

申込期限：2022年7月13日（水）

記入事項：1. 会の名称とテーマ

2. 代表者の連絡先

3. 日時・開催方式（現地会場の利用の有無・ウェブ会議等）

4. 予想参加人数（現地開催の場合のみ）



5. 趣旨
6. プログラム
7. 希望する支援内容（予稿集への案内掲載，現地会場利用等）

## IX. 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では，大会期間中に保育支援を行う方向で考えておりますが，コロナ禍における社会情勢の変化を見極めて検討を続けております。受け入れ先，手続きおよび補助額等も含め，決定次第，学会ホームページや大会ウェブサイトでお知らせいたします。

## X. キャリアエクスペローラーロゴについて

### 1. キャリアエクスペローラーロゴの趣旨

近年，社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために，日本気象学会では，キャリアエクスペローラーロゴの利用を勧めています。これは，広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので，会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に，適職に出会うのをサポートします。

### 2. キャリアエクスペローラーロゴ

大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。

### 3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員，またはそれに準ずる会員が講演する場合に，大会予稿および講演資料の中で，キャリアエクスペローラーロゴを使用できます。

1. 大会予稿：白黒ロゴを，講演題目の左側に，余白にはみ出さないよう適度な大きさに挿入してください。
2. 一般発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。

### 4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。発表の時間内は，求職・求人に関する議論はご遠慮ください。
3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても，日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。

## XI. リクルートブースの設置について

日本気象学会では，気象学会に所属する大学院生や有期雇用の若手研究者のキャリア形成をサポートするため，企業の就職担当者と就職を希望する参加者が直接情報交換する場として，リクルートブースを設置する予定です。参加企業名およびブース開設期間など詳細については大会プログラムとともにお知らせする予定です。

# 公益社団法人 日本気象学会 大会発表規程

(公社) 日本気象学会 講演企画委員会

## 1. 大会の趣旨

- 1.1 日本気象学会は、気象学の研究を盛んにし、その進歩をはかり、学術文化の発達に寄与するために、気象学会大会を春季と秋季の年二回開催し、気象に関する研究会および講演会を行う。

## 2. 大会参加登録

- 2.1 大会において口頭発表またはポスター発表を行う者（招待講演者も含む）は、あらかじめ大会 WEB サイトを通じて個人情報登録ならびに大会参加登録・参加費決済を行うこと。
- 2.2 大会で講演（口頭発表及びポスター発表）を行うためには、招待講演者の場合を除き、大会予稿を投稿し、講演企画委員会（以下、「委員会」という。）により採択される必要がある。
- 2.3 個人情報登録と大会参加登録は本人が行うこと。連絡先は本人に必ず連絡が取れる所とし、代理人の連絡先は認めない。事情に応じて事務局から問い合わせを行うことがある。ただし国外からの参加登録、外来研究者による参加登録、インターネットを利用できないなど、本人による登録がやむを得ず困難な場合には、代理人による登録ができる。

## 3. 大会予稿の作成

- 3.1 大会予稿の形式等に関しては、大会告示案内（大会 WEB サイトに掲載）に従うこと。

## 4. 著作権の委譲

- 4.1 本予稿原稿の著作権は、日本気象学会常任理事会決定「気象学会の刊行物の著作権委譲の強化について（2013年1月29日付け）」にもとづき、気象学会に委譲するものとする。

## 5. 大会予稿の投稿

- 5.1 大会予稿の投稿は、発表者が指定された期日までに行うこと。投稿に際しては、共著者の了承を得るとともに、全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書を提出すること。国外からの投稿、外来研究者による投稿など、発表者による投稿がやむを得ず困難な場合には、代理人による投稿ができる。なお、発表者の承諾を得ずに代理投稿された場合には、それを受理しない。
- 5.2 同一発表者による発表可能件数は、最大二件までとする（招待講演もカウントする）。

## 6. 審査

- 6.1 委員会は、審査により、大会予稿の採択または不採択を決定する。大会予稿の採択または不採択は、委員会の裁量に委ねられ、以下に示す例のように、大会予稿の内容が気象学会大会発表として不適切だと委員会が判断した場合には、不採択とすることが出来る。
  - (1) 発表内容が他人の研究成果の剽窃と判断される場合、
  - (2) 大会予稿が定められた体裁から著しく逸脱すると判断される場合、
  - (3) 発表内容が社会倫理上、不適切と判断される場合、
  - (4) 発表内容が特定の個人ないし団体を誹謗中傷するものと判断される場合、
  - (5) 大会の趣旨を逸脱した目的のために投稿がなされたと判断される場合、
  - (6) その他大会の趣旨に鑑み、発表内容が不適切であると判断される場合
- 6.2 発表形態（口頭発表またはポスター発表）は、発表者の希望を考慮し、委員会が決定する。
- 6.3 大会予稿が不採択となった場合には、委員会から投稿者に対して理由を附して通知する。この場合、大会参加料（または参加種別による差額）は返却する。
- 6.4 不採択の理由を不服とする場合には、発表者本人が一回に限り再審査を申し立てることができる。

## 7. 再審査

- 7.1 再審査の申し立ては、申し立て者の氏名・連絡先、講演題目、著者、および再審査申し立ての理由を記載した再審査申立書（様式は任意）を、委員会事務局宛に提出すること。
- 7.2 再審査申立書の提出は郵送で行い、不採択の通知を受けた日を含む七日間のうちに必着のこと。
- 7.3 再審査申し立てに際して、大会予稿の変更は認められない。再審査は委員会が行い、結果（採択・不採択）を申し立て者に通知する。

## 8. 採択後の変更・キャンセル

- 8.1 採択後に講演内容（講演題目，大会予稿）や発表形態を変更することは認めない。
- 8.2 病気等やむを得ない事情で発表をキャンセルする場合は，速やかに委員会事務局に連絡すること。発表がキャンセルとなった場合には，大会参加料は返却しない。